

2026 年 1 月 16 日(金) ハコラク 2 月号 掲載

医療の現場から『NICU・GCUにおける作業療法士のリハビリテーションについて』

阿部 かえで 作業療法士

NICU・GCUにおける作業療法士の リハビリテーションについて



函館中央病院

リハビリテーション科 作業療法士

阿部 かえで さん

近年、我が国における出生数は減少傾向にあります。周産期および新生児医療の進歩に伴う救命率は上昇しています。早産児や低出生体重児をはじめとして、さまざまな先天性の病気を抱えて生まれてきた子どもを管理する場所をNICU（新生児集中治療室）といい、24時間体制で集中治療・管理が行われています。また、NICUで状態が安定してきた子どもが引き続き治療を受ける場所をGCU（回復治療室）といい、医療スタッフが連携し、

ご家族が自宅で安心して育児を進めていけるように、育児環境の提供や育児指導を行います。

作業療法士はNICU・GCUにて早期からのリハビリテーション介入を行い、子どもの状態を把握するための評価や、子ども自身の自己調整能力や反応を引き出す運動や遊びの提供をします。早産児や低出生体重児においても触れる（触覚）、見る（視覚）、聞く（聴覚）などの感覚は発達し機能しているため、個々に合わせ

た早期からの感覚刺激を行い、感覚運動経験を積むことは、脳の成熟を促進するとされています。子どもが最大限に自身の能力を発揮できるように、日々子どもの反応を観察し、関わり方を調整しながらリハビリテーションを実施します。また、子どもへの直接的な介入だけではなく、ご家族への支援も並行して行います。子どもの発達状況に合わせた抱っこの方法や、姿勢の伝え方（寝返り・お座りなど）を練習したり、感覚刺激に対する子どもの反応特性について説明を行ったりなど、子どもの行動についての理解を一緒に深めていき、愛着形成の促進を図ります。介入は入院期間だけでなく退院後も継続して行い、子どもの成長やライフステージに合わせてリハビリテーションを提供できるように努めております。

子育ては正解がないと言われる中で、NICU・GCUに入院したお子さんを持つご家族はより悩みが尽きないかと思えます。そのような悩みを一緒に解決できるよう早期から長期的にフォローアップし、子どもの可能性を広げていきたいと考えております。